

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|--------------------------------------|
| 事業名 | 防災・災害ボランティア育成事業 |
| 事業主体 (連絡先) | 特定非営利活動法人 絆 JAPAN 諏訪郡原村 16267-521 |
| 事業区分 | (4) 安全・安心な地域づくり |
| 事業タイプ | ソフト |
| 総事業費 | 984,506 円 (うち支援金: 777,000 円) |

事業内容

近年自然災害におけるボランティアの役割が重要視され、なかでも技術系ボランティアのニーズが高まっています。当団体では2019年台風19号災害時には、団体所有の重機やボランティアを派遣しました。その経験から当団体の所有する小型車両系建設機械(2tミニバックホー)を使い重機のボランティアオペレーターの養成をおこないました。

また地震など災害時に必要なチェーンソーの特別教育を実施しました。

又、災害時に必要とされる技術や知識を養うため防災キャンプも実施し、防災食、救急救命法、AEDの使用実習等を行いました。

事業効果

参加者は、車両系建設機械資格所有者で実務経験が殆ど無い人(俗にいうペーパードライバー)、ボランティア経験は有るが初めて重機を扱う人、災害ボランティアに意欲的な初心者で、参加者が長時間運転をする事により、よりスムーズな作業が出来る様になりました。

絆 JAPANの災害ボランティアとして登録して下さった方が、5名、再受講生が5名でスキルアップに努めました。

チェーンソー講習会は7名の参加者があり、安全な取り扱い、実地訓練、応用作業などを行い全員が終了証を手にしました。

防災キャンプでは災害時に役に立つロープワークや防災食、救急救命法、AED操作方法などを学び、災害時に役に立つスキルアップをしました。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

更に重機を使った災害復旧技術の向上、防災意識の啓蒙、地元の災害ボランティアの技術や知識の向上を図ります。

また、今後は重機のみならずチェーンソーの講習や、簡易テントの作り方、救命救急の方法や、ハイゼックス炊飯のやり方等災害時に役立つ様々なスキルを住民の皆さまに身に付けて頂くべく内容を広げて事業を進めて行く予定です。

1月1日に発生した能登の地震災害に当団体の重機や3tダンプ、資材、ボランティアを派遣します。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【重機練習】

【目標・ねらい】

- ① 災害時の技術系ボランティアの育成
- ② 受講終了後には登録をして貰い有事の際には協力を要請出来る体制作り
- ③ 災害時対応スキルアップ

※自己評価 【 B 】

【理由】

予定に近い参加者が有り、再受講者や災害支援登録者も10名あった。チェーンソー講習において安全かつ効率的作業のスキルアップが出来た。災害時における、対応力のスキルアップが出来た。